

# 第5章 社会生活、社会参加

東洋大学社会学部教授 秋元美世

## 社会とのかかわり

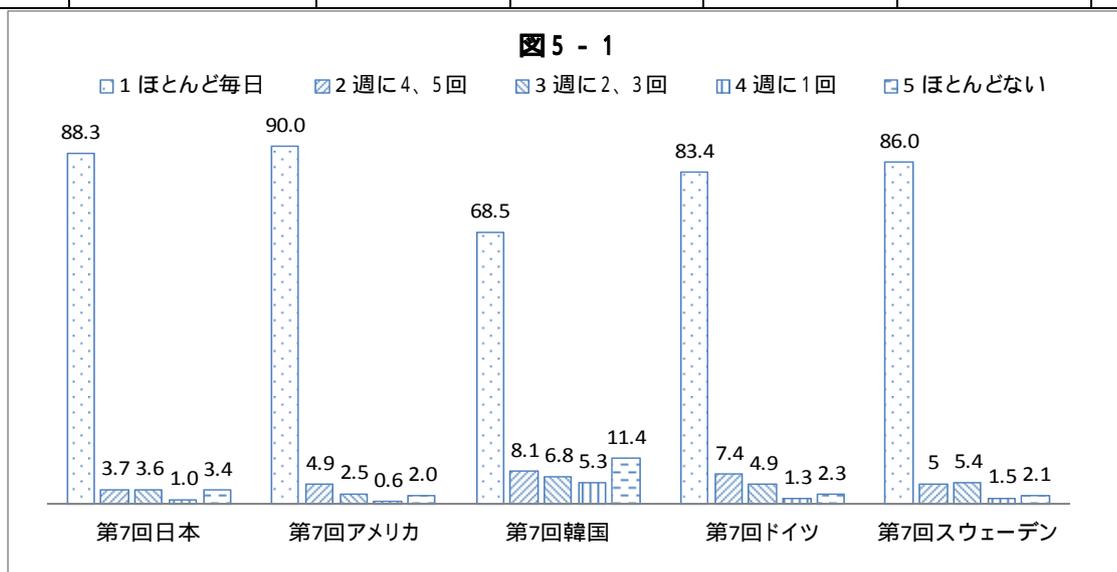
### 1 他者との交流

#### (1) 人（同居の家族、ホームヘルパー等を含む）と話す頻度（Q43a）

「普段どの程度、人（同居の家族、ホームヘルパー等を含む）と話すか」についてみると、「ほとんど毎日」の割合は、アメリカで90.0%と最も高く、次いで、日本(88.3%)、スウェーデン(86.0%)、ドイツ(83.4%)、韓国(68.5%)の順となっている。さらに週に4、5回を加えた場合には、アメリカ(94.9%)、日本(92.0%)、スウェーデン(91.0%)、ドイツ(90.8%)の4カ国が、9割を超えたおおよそ同じぐらいの高い水準になっている（アメリカは若干多めだが）。一方、韓国では、他の国と比べて、「ほとんどない」の割合が11.4%と高くなっており、高齢者の孤立が進んでいることがうかがえる。この質問項目での調査は今回が初めてである。調査結果からは、日本に関して少なくとも数字の上だけからは、孤立化の様子はうかがえないが、今後の推移を注目していきたい。

表5-1 人と話す頻度

Q43a		%				
		第7回 日本	第7回 アメリカ	第7回 韓国	第7回 ドイツ	第7回 スウェーデン
1	ほとんど毎日	88.3	90.0	68.5	83.4	86.0
2	週に4、5回	3.7	4.9	8.1	7.4	5.0
3	週に2、3回	3.6	2.5	6.8	4.9	5.4
4	週に1回	1.0	0.6	5.3	1.3	1.5
5	ほとんどない	3.4	2.0	11.4	2.3	2.1

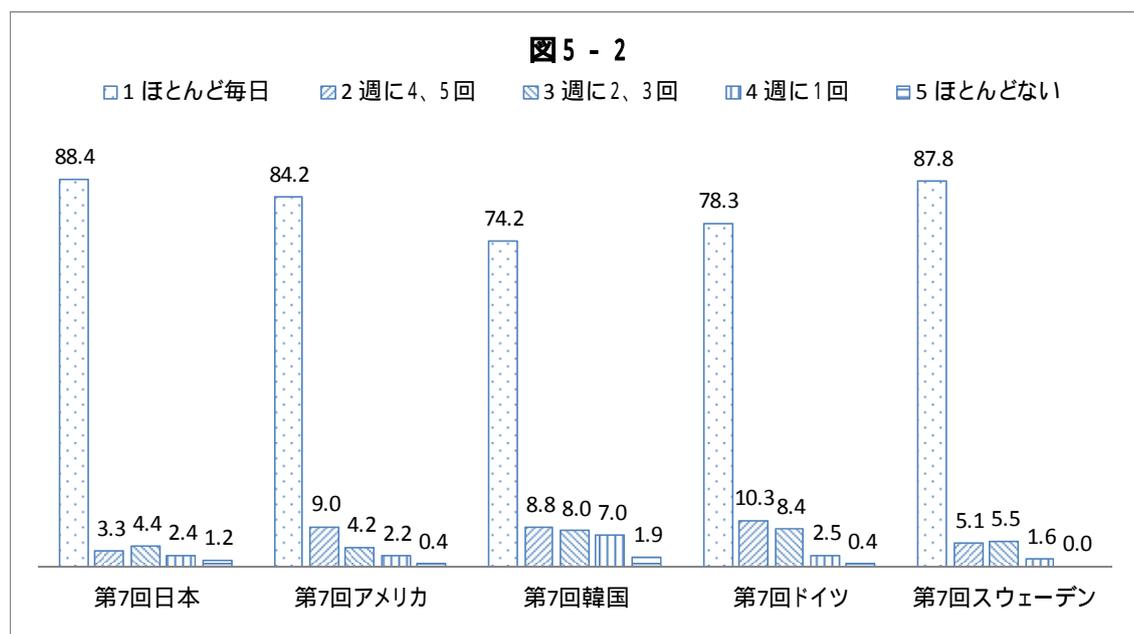


(2) 人(同居の家族、ホームヘルパー等を含む)と直接会って話をする頻度(Q43b)

「人(同居の家族、ホームヘルパー等を含む)と話をする」と回答した人につき、「普段どの程度、人(同居の家族、ホームヘルパー等を含む)と直接話をするか」についてみると、「ほとんど毎日」の割合は、日本で88.4%と最も高く、次いで、スウェーデン(87.8%)、アメリカ(84.2%)、ドイツ(78.3%)、韓国(74.2%)の順となっている。携帯電話での通話やメールあるいはPCのメールなど情報機器を利用しての交流も増加する傾向が見られるが(Q52参照)人と直接会っての交流がなお基本となっている様子がうかがえる。

表5-2 人と直接会って話をする頻度

Q43-b		%				
		第7回 日本	第7回 アメリカ	第7回 韓国	第7回 ドイツ	第7回 スウェーデン
1	ほとんど毎日	88.4	84.2	74.2	78.3	87.8
2	週に4、5回	3.3	9.0	8.8	10.3	5.1
3	週に2、3回	4.4	4.2	8.0	8.4	5.5
4	週に1回	2.4	2.2	7.0	2.5	1.6
5	ほとんどない	1.2	0.4	1.9	0.4	0



## 2 同居の家族以外に頼れる人 (Q44)

「病気の時や、一人では出来ない日常生活に必要な作業が必要な時、同居の家族以外に頼れる人がいるか」についてみると、各国で「別居の家族・親族」(日本 60.9%、アメリカ 63.6%、韓国 53.7%、ドイツ 73.7%、スウェーデン 58.6%)の割合が最も高くなっている。一方、「友人」の割合は、欧米3か国(アメリカ 44.6%、ドイツ 40.7%、スウェーデン 34.9%)に比較して、アジアの日本(17.2%)と韓国(18.3%)で低い割合となっている。ちなみにスウェーデンについては、他の欧米2カ国に比べて、「別居の家族・親族」「友人」「近所の人」についての数字が総じて低いが、この点は公的な支援がしっかりとしていることとかかわりがあるのかも知れない(「その他」の割合が5カ国中最も高いのもこのことの影響と見ることもできよう)。

日本の場合、「近所の人」の割合も 18.5%となっており、他の4か国(アメリカ 23.7%、韓国 23.1%、ドイツ 38.2%、スウェーデン 26.5%)より低い数字となっている。また頼れる人が「いない」について、日本(20.3%)は韓国(20.0%)とともに高い割合を示している。この項目も今回が初めての質問項目である。今後の推移に注目したい。

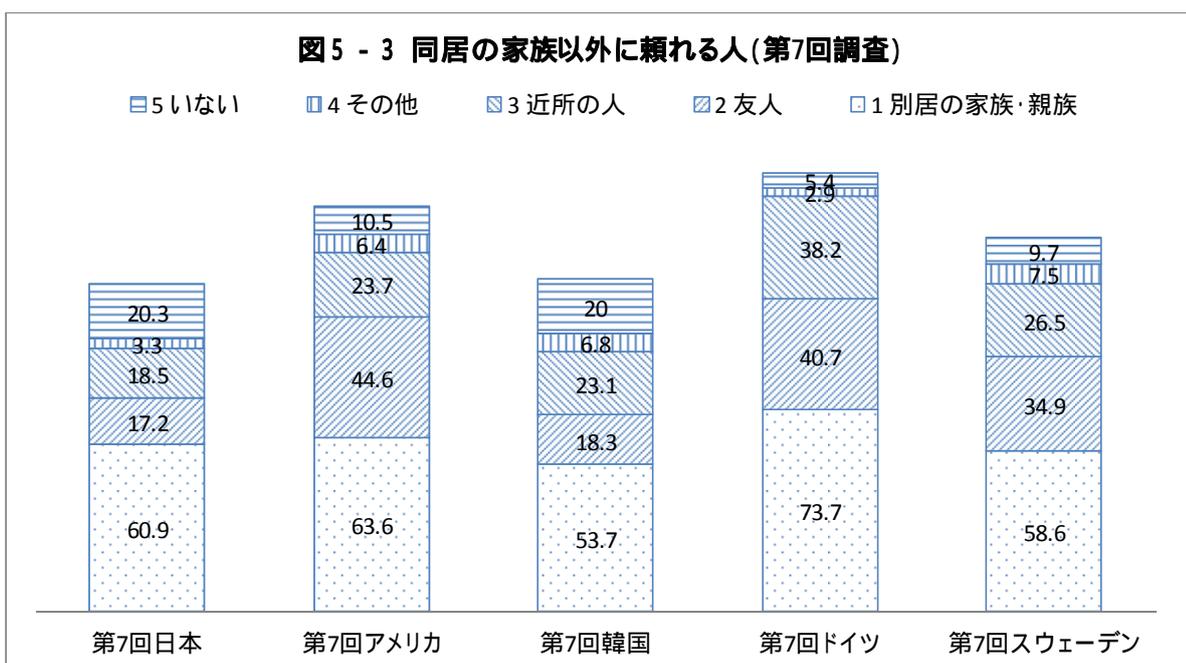
表 5 - 3 同居の家族以外に頼れる人

Q44(複数回答)

%

		第7回 日本	第7回 アメリカ	第7回 韓国	第7回 ドイツ	第7回 スウェーデン
1	別居の家族・親族	60.9	63.6	53.7	73.7	58.6
2	友人	17.2	44.6	18.3	40.7	34.9
3	近所の人	18.5	23.7	23.1	38.2	26.5
4	その他	3.3	6.4	6.8	2.9	7.5
5	いない	20.3	10.5	20	5.4	9.7

図 5 - 3 同居の家族以外に頼れる人 (第7回調査)



### 3 近所の人たちとの交流

#### (1) 近所の人たちとの交流頻度 (Q45)

「週に何回ぐらい、近所の人たちと話をするか」についてみると、「ほとんど毎日」の割合は、韓国で40.9%と最も高く、次いで、ドイツ(40.5%)、スウェーデン(33.1%)、アメリカ(29.4%)、日本(22.7%)の順となっている。一方、「ほとんどない」の割合は、日本(31.6%)、アメリカ(29.2%)、スウェーデン(17.6%)、韓国(12.8%)、ドイツ(8.6%)となっている。日本では、「ほとんどない」の割合が31.6%と、調査実施国中最も高く、近所の人たちとの交流の少なさがうかがえる。

ただし図5-4・表5-4にあるように、「ほとんどない」の割合の高い日本とアメリカにおいても、他方で、「ほとんど毎日」も高い割合を示している。高齢者の近隣の人々との交流が2つのタイプに分極化している傾向がうかがえる。

図5-4 表5-4 近所の人たちとの交流頻度 (第7回調査)

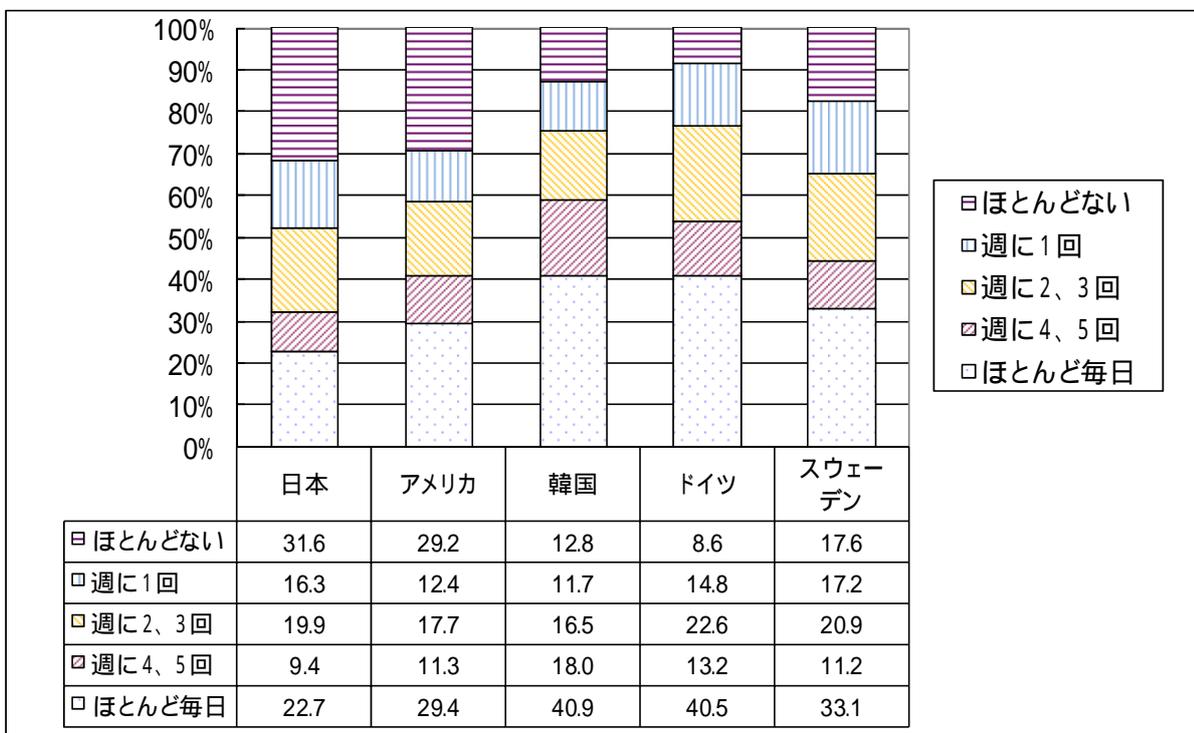
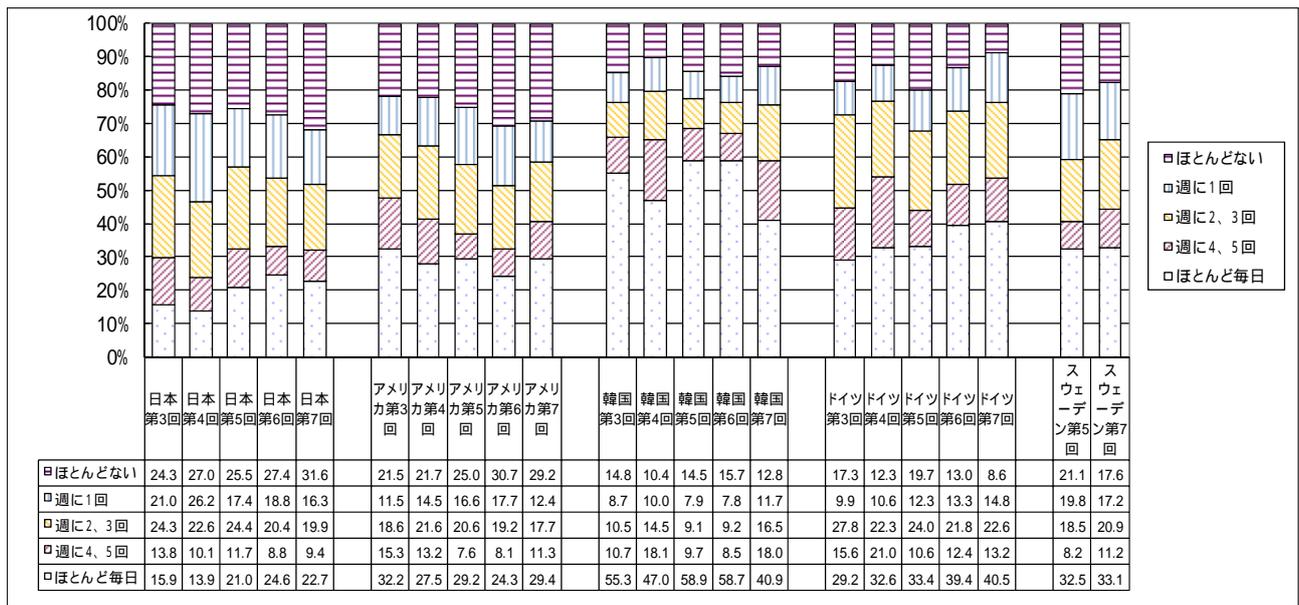


図5-5・表5-5から、日本、アメリカ、韓国、ドイツの4カ国の「ほとんど毎日」の占める割合が、他の項目との関係で何位に位置するかを第3回調査から第7回調査までを順に見てみると、日本が「4位・4位・4位・3位・4位」、アメリカが「2位・3位・3位・4位・3位」、韓国が「1位・1位・1位・1位・1位」、ドイツが「2位・2位・2位・2位・2位」となっている。韓国とドイツが常に高順位を維持し、日本とアメリカが低い順位に位置し続けている傾向が見られる。ただし、韓国は今回調査でも1位ではあるが、数値的には2位のドイツとほとんど差がない状況にある。さらに韓国は、前回調査から20ポイント近く下げられており、近隣との交流が、都市化等に伴って薄まってきている様子が見える。なお、日本は、前2回の調査では、「ほとんど毎日」の割合が増加してきていたが、今回調査では2ポイントほど低下している。

図 5 - 5 ・表 5 - 5 近所の人たちとの交流頻度（第 3 ～ 第 7 回調査）

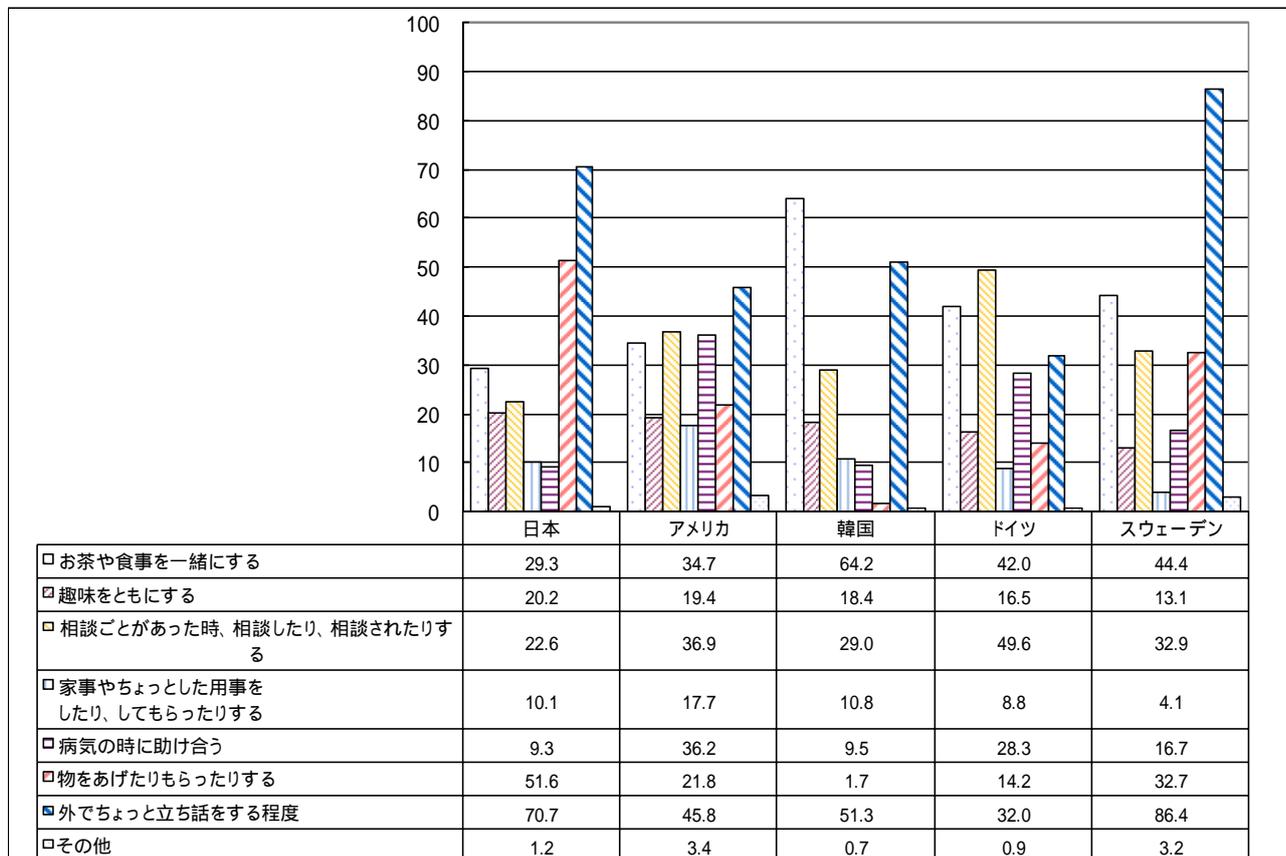


( 2 ) 近所の人たちとの付き合い方 ( Q46 )

図 5 - 6 ・ 表 5 - 6 は、近所の人たちと交流のある高齢者に、その具体的な付き合い方について聞いたものを各国別にまとめたものである。

図 5 - 6 ・ 表 5 - 6 近所の人たちとの付き合い方 ( 第 7 回調査 )

複数回答 %



日本では「外でちょっと立ち話をする程度」(70.7%)、「物をあげたりもらったりする」(51.6%)の割合が高く、次いで「お茶や食事を一緒にする」(29.3%)、「相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする」(22.6%)、「趣味をともにする」(20.2%)と続いている。

アメリカでは、「外でちょっと立ち話をする程度」(45.8%)の割合が最も高く、次いで、「相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする」(36.9%)、「病気の時に助け合う」(36.2%)の順となっている。他の国と比較して特に突出して高かったり、低かったりする項目はなく、その意味で付き合い方の多様さがうかがえる。

韓国では「お茶や食事を一緒にする」(64.2%)の割合が最も高く、次いで、「外でちょっと立ち話をする程度」(51.3%)、「相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする」(29.0%)の順となっている。他の国と比べると、「お茶や食事を一緒にする」の占める割合が高い。

ドイツでは「相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする」(49.6%)、「お茶や食事を一緒にする」(42.0%)、「外でちょっと立ち話をする程度」(32.0%)の割合が高くなっている。

スウェーデンでは、「外でちょっと立ち話をする程度」(スウェーデン 86.4%)の割合が突出して高くなっているが、続く、「お茶や食事を一緒にする」(44.4%)、「相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする」(32.9%)の割合も決して低い数字ではない。

全体的に見ると、「外でちょっと立ち話をする程度」の割合が高い日本と、「お茶や食事を一緒にする」や「相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする」といった親密で相互扶助的な付き合い方がより高い割合を示している韓国とドイツのグループ、さらに「外でちょっと立ち話をする程度」と「お茶や食事を一緒にする」の双方がともに高い割合を示しているアメリカ・スウェーデンに分かれている。なお、日本については、「物をあげたりもらったりする」がかなり高い割合を示している。物のやりとりを媒介とする関係が重視されていることがうかがわれ興味深い。

次に、図表(Q46-2)は、第3回調査から第7回調査までの推移を示したものである(各国について各回1位から3位までのものにその順位を付してある)。これを見ると、まず日本と韓国の場合、これまでの調査において1位から3位までに登場する項目に変化はない。日本については、第5回までその順位も毎回同じであったが、前回(第6回)1位と2位の入れ替えがあった。今回も前回入れ替わった順位が引き継がれ、1位は「外でちょっとした立ち話をする程度」である。他方、韓国の場合、2位と3位の入れ替えを中心に、毎回順位の変化が見られる。今回も、2位と3位が入れ替わっている。

アメリカの場合、前回の2位の項目が4位に、前回の4位と3位がそれぞれ3位と2位へと変わっており、1位から3位までに登場する項目に変化が見られるが、それらの変化は1～2ポイント程度のものであり、内容的には前回と殆ど変わっていないと言えよう。

ドイツの場合、「お茶や食事を一緒にする」や「相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする」といった親密で相互扶助的な付き合い方がより高い割合を示しているという傾向は、各回の調査で一貫してみられるものとなっている。

表5-7 近所の人たちとの付き合い方(第3回～第7回調査)

付数字は順位(複数回答)(%)

		日本				
		第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
1	お茶や食事を一緒にする	30.9	32.3	32	32.4	29.3
2	趣味をともにする	26.8	24.3	25.4	25.5	20.2
3	相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする	24.3	26.4	29.2	24.2	22.6
4	家事やちょっとした用事をしたり、してもらったりする	4.6	4.4	6.5	8.2	10.1
5	病気の時に助け合う	13.9	13.2	9.8	8.7	9.3
6	物をあげたりもらったりする	61.7	63.3	61.2	51.4	51.6
7	外でちょっと立ち話をする程度	48.9	48.7	53.5	66.3	70.7
8	その他	2.8	2.8	2.2	2.5	1.2

注) 3の項目は、第4回までは「相談ごとがあった時、相談をする」

4の項目は、第4回は「家事を助け合う」

以下同じ

		アメリカ				
		第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
1	お茶や食事を一緒にする	29.1	28.2	32.8	36.4	34.7
2	趣味をともにする	22.1	18.8	18.1	20.9	19.4
3	相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする	45.4	46.2	41.3	35.8	36.9
4	家事やちょっとした用事をしたり、してもらったりする	16.6	18.3	16.5	10.4	17.7
5	病気の時に助け合う	53.4	46.2	38.6	34.3	36.2
6	物をあげたりもらったりする	41.1	41.7	32.0	22.1	21.8
7	外でちょっと立ち話をする程度	37.7	40.7	38.6	43.6	45.8
8	その他	16.2	8.2	10.9	2.7	3.4

		韓国				
		第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
1	お茶や食事を一緒にする	46.9	57.1	62	65.3	64.2
2	趣味をともにする	21.8	29.8	24.4	30.4	18.4
3	相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする	50.8	49.8	30	40.2	29.0
4	家事やちょっとした用事をしたり、してもらったりする	36.9	25.8	18.0	23.5	10.8
5	病気の時に助け合う	33.3	18.8	20.1	20.0	9.5
6	物をあげたりもらったりする	17.4	16.2	4.2	6.3	1.7
7	外でちょっと立ち話をする程度	42.8	40.7	48.3	37.9	51.3
8	その他	2.9	0.0	2.8	1.6	0.7

		ド イ ツ					スウェーデン	
		第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第5回	第7回
1	お茶や食事を一緒にする	35.1	32.9	42.1	42.4	42.0	54.1	44.4
2	趣味をともにする	11.8	13.5	18.5	20.9	16.5	15.3	13.1
3	相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする	40.5	52.7	54.4	52.4	49.6	27.2	32.9
4	家事やちょっとした用事をしたり、してもらったりする	9.2	9.2	6.5	7.4	8.8	3.7	4.1
5	病気の時に助け合う	21.9	28.6	25.5	22.8	28.3	16.6	16.7
6	物をあげたりもらったりする	45.2	49.4	18.2	13.7	14.2	12.3	32.7
7	外でちょっと立ち話をする程度	47.6	49.5	52.7	35.5	32.0	80.1	86.4
8	その他	7.2	7.6	5.6	4.7	0.9	2.3	3.2

(3) 親しい友人の有無 (Q47)

図5-7・表5-8は、家族以外に相談あるいは世話をし合う親しい友人がいるかについて聞いたものであるが、友人の性別にかかわらず「友人がいる」の割合はアメリカが84.3%、ドイツが80.0%、スウェーデンが88.7%と、欧米3カ国がそれぞれ8割以上の数字を示している。それに対して、日本(70.1%)と韓国(64.3%)のアジア2カ国は、欧米3カ国に比べて低い数字となっている。

友人の性別をみると、日本と韓国では「同性の友人」(日本53.2%、韓国62.9%)が群を抜いて高い割合となっている。アメリカも同性の友人の割合が一番高くなっているが、「同性と異性の友人がいる」の数字と大きな差がなく、双方ともに4割前後の水準にある。ドイツ、スウェーデンの2カ国では「同性と異性の友人がいる」(ドイツ45.0%、フランス57.6%)が最も高くなっている。

一方、友人は「いない」の割合をみると、日本及び韓国のアジア2カ国ではそれぞれ26.2%、31.3%となっているのに比べて、アメリカ(15.7%)、ドイツ(17.7%)、スウェーデン(11.4%)の欧米3カ国では低くなっている。

こうしてみると、親しい友人の持ち方に関して、明らかに欧米の3カ国と東アジアの2カ国で大きな文化的な差異が認められる。

さらにこのような傾向は、図表(Q47-2)に見られるように、第1回調査以来、あまり変わっていないようである。

図5-7 親しい友人の有無 (第7回調査)

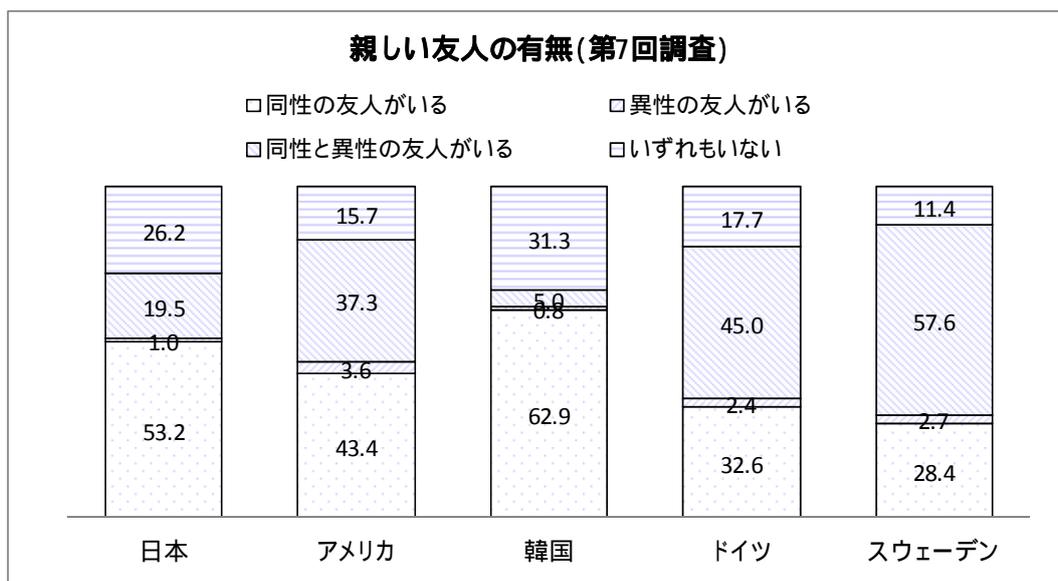


表 5 - 8 親しい友人の有無（第 7 回調査）

	日本	アメリカ	韓国	ドイツ	スウェーデン
友人がいる	73.7	84.3	68.7	80	88.7
同性の友人がいる	53.2	43.4	62.9	32.6	28.4
異性の友人がいる	1	3.6	0.8	2.4	2.7
同性と異性の友人がいる	19.5	37.3	5	45	57.6
いずれもない	26.2	15.7	31.3	17.7	11.4

表 5 - 9 親しい友人の有無（各回調査）

Q 47-2

		日本						
		第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回	第 7 回
友人がいる		68.2	66.3	70.5	69	75.2	70.1	73.7
	同性の友人がいる	57.3	54.1	60	57.9	56.3	50.4	53.2
	異性の友人がいる	0.9	1.4	1.5	1.6	1	1.2	1
	同性と異性の友人がいる	10	10.8	9	9.5	17.9	18.5	19.5
いずれもない		29	33.4	28.7	30.5	24.8	29.9	26.2

		アメリカ						
		第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回	第 7 回
友人がいる		90.6	93.3	91.7	90.1	87.1	84.6	84.3
	同性の友人がいる	32.2	24.9	27.4	31	33.2	41.8	43.4
	異性の友人がいる	1.1	1.4	1.6	2.2	2.7	2.7	3.6
	同性と異性の友人がいる	57.3	67	62.7	56.9	51.2	40.1	37.3
いずれもない		8.9	6.6	7.9	9.4	11.5	15.2	15.7

		韓国					
		第 1 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回	第 7 回
友人がいる		72.5	66.4	68.7	61	64.3	68.7
	同性の友人がいる	38.9	60.2	62.5	55.3	55.1	62.9
	異性の友人がいる	30	1.1	2.4	1.8	1	0.8
	同性と異性の友人がいる	3.6	5.1	3.8	3.9	8.2	5
いずれもない		27.3	33.6	31.3	39	35.8	31.3

		ドイツ					スウェーデン	
		第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第5回	第7回
友人がいる		85.4	88	83	77.8	80	92.2	88.7
	同性の友人がいる	25.7	28.6	26.5	29.3	32.6	26.4	28.4
	異性の友人がいる	0.7	0.6	1.2	2.8	2.4	2.5	2.7
	同性と異性の友人がいる	59	58.8	55.3	45.7	45	63.3	57.6
いずれもない		13.8	11.9	17	22	17.7	7.8	11.4

## 社会活動への参加

### 1 ボランティア活動

#### (1) ボランティア活動への参加状況 (Q48)

図5-8・表5-10は、「福祉や環境を改善することなどを目的としたボランティア活動やその他の社会活動を行っているか」について尋ねた結果である。

これまでに全く参加したことがないと答えた割合は、韓国の74.2%が5か国中最も高く、次いで日本の51.7%、ドイツの42.9%、アメリカの33.1%と続き、最も割合が低いのがスウェーデンで28.3%となっている(ちなみに、韓国、日本、ドイツ、アメリカという順番は、前回調査のときと同じである)。韓国の74.2%は、他の4カ国と比べてかなり高い割合と言えよう。また「以前には参加していたが今は参加していない」の割合も他の4カ国に比較してかなり低い数字となっている。高齢者のボランティア活動への参加が活発ではない様子がうかがえる。なお、日本とドイツについては、ボランティア活動等に参加しとことのある人が増加している傾向が見られる(日本は46.6%から48.3%、ドイツが53.8%から57.1%)。

具体的な活動についてみると、日本では「近隣の公園や通りなどの清掃等の美化運動」(14.2%)、「地域行事、まちづくり活動」(13.3%)などが主要な活動となっている。また、前回比較して「交通安全や防犯・防災に関する活動」のポイントが高くなっている。

アメリカでは「宗教・政治活動」(28.7%)の割合が高く、次いで「自分の趣味や技能を生かした支援活動」(14.2%)、「地域行事、まちづくり活動」(12.5%)が続く。基本的な傾向は前回調査と大きく変わっていない。

韓国ではボランティアへの参加率は全体的に低い、そうした中でも「宗教活動・政治活動」(8.4%)の割合が高い。基本的な傾向は前回調査と大きく変わっていない。

ドイツでは「宗教活動・政治活動」(10.7%)、「自分の趣味や技能を生かした支援活動」(9.8%)が相対的に高い割合を示している。ドイツの場合も、基本的な傾向は前回調査と大きく変わっていない。

スウェーデンの場合に特徴的なのは、何らかのボランティア活動に参加している者(参加した経験のある者を含む)が71.7%と、アメリカ(66.9%)と並んでかなり高い割合を示しているという点である。ちなみに、アメリカの場合の「宗教・政治活動」のように、飛び抜けて高い数字となっている活動は特にないが、あえて言えば「地域行事、まちづくり活動」の割合が比較的高いと言うことができよう。

図 5 - 8 ボランティア活動の参加状況（第 7 回）複数回答 %

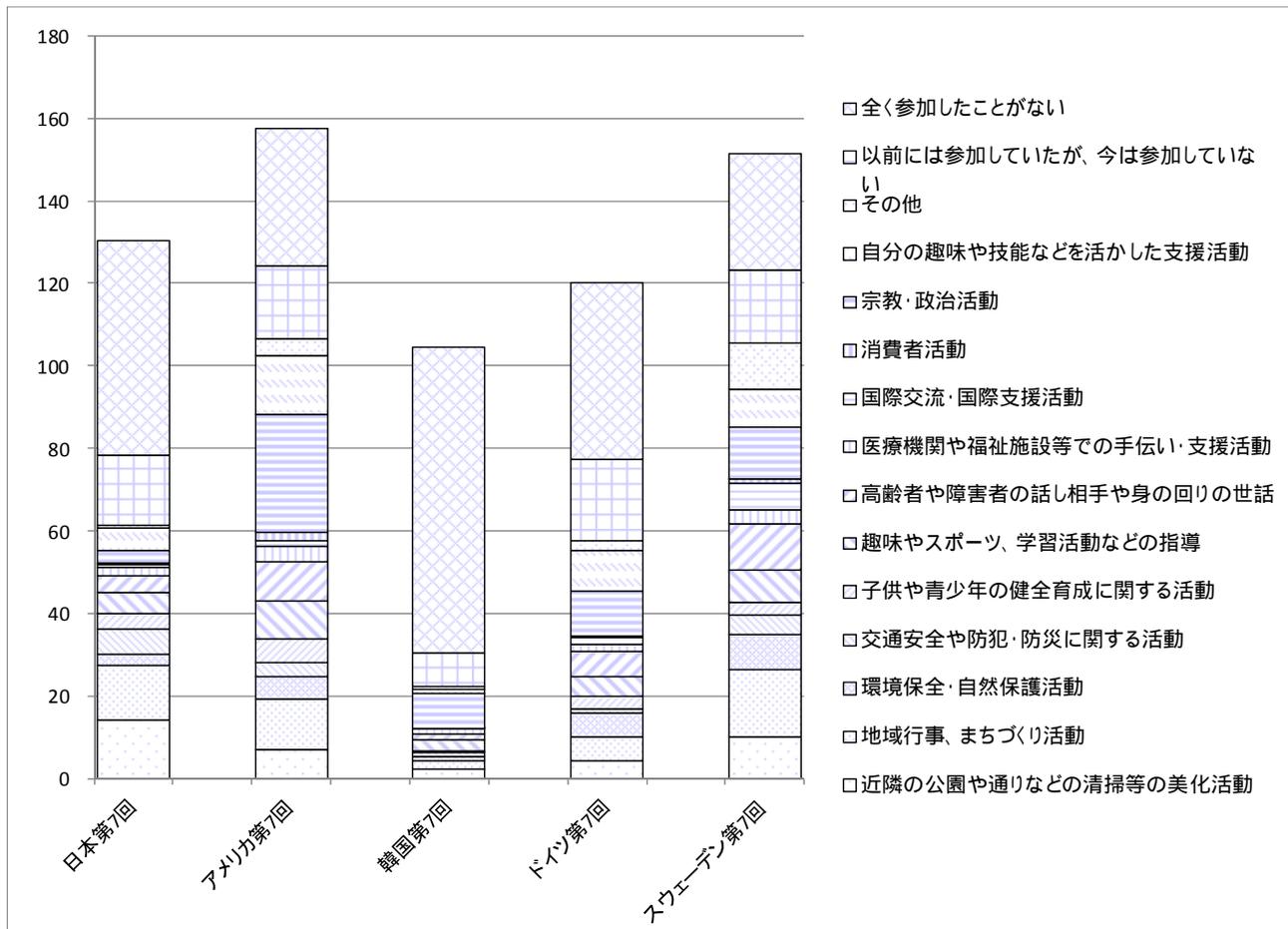


表 5 - 10 ボランティア活動の参加状況（第 6 回、第 7 回）複数回答 %

	日本		アメリカ		韓国		ドイツ		スウェーデン
	第 6 回	第 7 回	第 6 回	第 7 回	第 6 回	第 7 回	第 6 回	第 7 回	第 7 回
近隣の公園や通りなどの清掃等の美化活動	12.8	14.2	3.9	7.0	5.6	2.5	2.8	4.4	10.3
地域行事、まちづくり活動	12.8	13.3	13	12.5	1.9	1.9	4.3	5.7	16.4
環境保全・自然保護活動	3.9	2.9	5.1	5.5	2.8	1.2	5.9	6.0	8.5
交通安全や防犯・防災に関する活動	4.3	5.9	1.8	3.4	1.0	0.8	1.0	0.9	4.5
子供や青少年の健全育成に関する活動	3.0	3.7	5.7	5.7	0.5	0.3	2.2	3.1	3.0
趣味やスポーツ、学習活動などの指導	5.8	5.3	7.3	9.0	2.6	2.9	4.8	4.8	8.1
高齢者や障害者の話し相手や身の回りの世話	4.4	4.0	5.9	9.7	4.0	1.4	4.4	6.0	11.1
医療機関や福祉施設等での手伝い・支援活動	2.4	1.9	3.7	3.6	1.6	1.1	1.8	1.7	3.4
国際交流・国際支援活動	1.1	1.0	1.1	1.3	0.0	0.0	1.5	1.7	6.5
消費者活動	0.5	0.3	1.2	2.1	0.0	0.2	0.9	0.5	0.8
宗教・政治活動	2.7	3.0	28.7	28.7	10.5	8.4	10.8	10.7	12.6
自分の趣味や技能などを活かした支援活動	5.7	5.4	11.5	14.2	1.1	1.2	10.5	9.8	9.2
その他	2.4	0.8	2.6	4.0	1.2	0.5	4.5	2.5	11.2
以前には参加していたが、今は参加していない	15.9	17.0	21.5	17.8	7.0	8.1	20.8	19.8	17.7
全く参加したことがない	53.4	51.7	32.3	33.1	72.5	74.2	46.2	42.9	28.3

## ( 2 ) ボランティア活動に参加しない理由 ( Q49 )

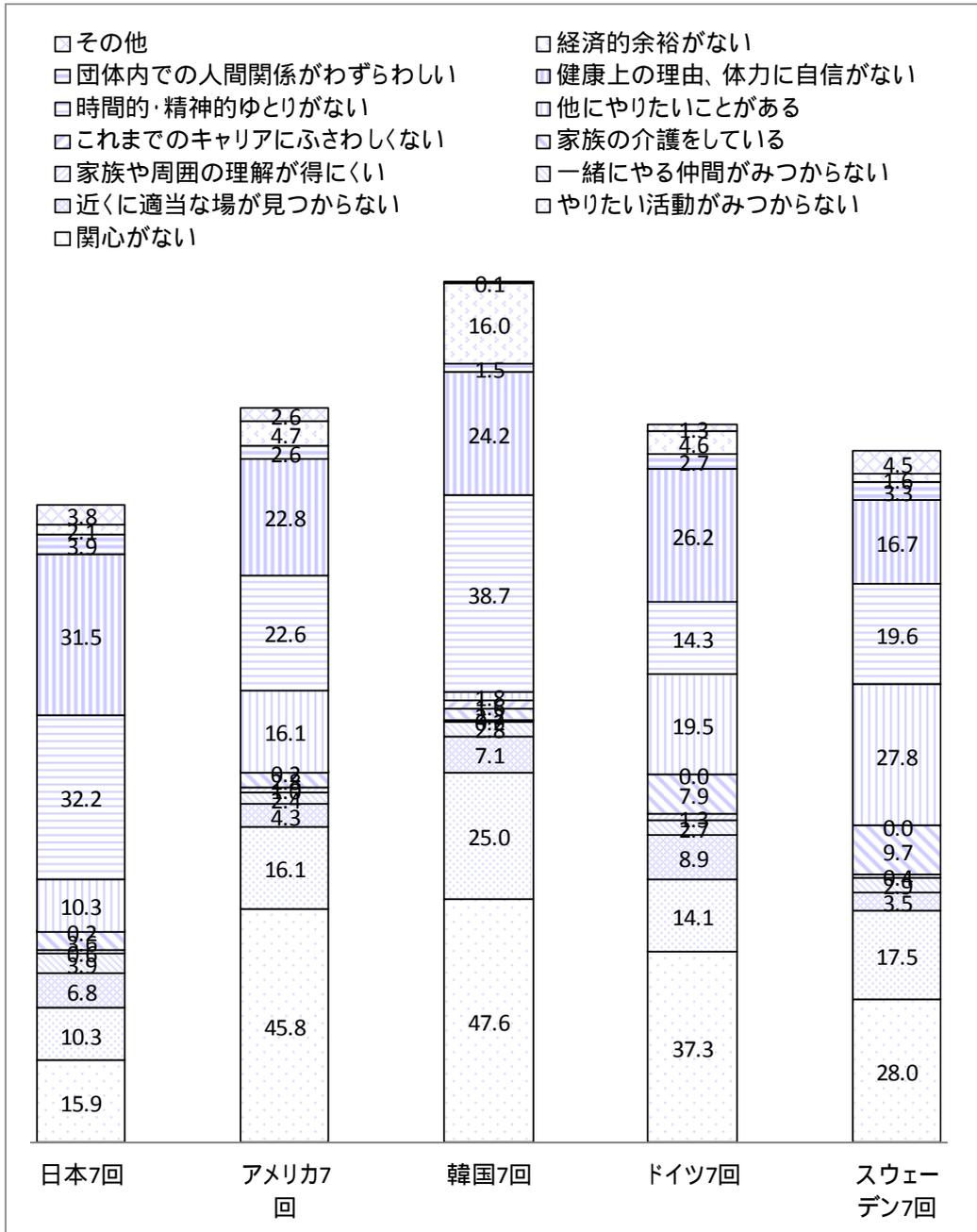
図表 5 - 9 は、ボランティア活動に参加したことのない人、以前は参加していたが現在は参加していない人に対して参加しない理由を聞いた結果を示したものである。

一番特徴的な点は、日本以外の 4 カ国は、「関心がない」の割合がいずれも高いのに対して ( 韓国・47.6%、アメリカ・45.8%、ドイツ・37.3%、スウェーデン・28.0% ) 日本は 15.9% と少ない。これは前回調査でも同様に見られた特徴である。この点については、これらの数字が、ボランティア活動に参加していない人を対象にしたものであることを踏まえて見ておく必要がある。つまりアメリカなどでは、ボランティア活動をすることが生活の中でふつうのこととして位置づけられているため、ボランティア活動に関心があれば、それがすぐに実際の行動へと結びつき、そのため関心があっても参加していないという人がもともと少ない。その結果として参加しない人の中で「関心がない」を理由とする人の割合が多くなる。というようにも考えることができるからである。

その他全般的には、「健康上の理由、体力に自信がない」、「時間的・精神的ゆとりがない」の割合が各国ともに高い。とりわけ日本では、31.5% ( 健康上の理由、体力に自信がない )、32.2% ( 時間的・精神的ゆとりがない ) と、他国に比較しても高い割合を占めている。この点、日本で「関心がない」の割合が低いということと重なっているところもあるように思われる ( 関心があってもそれらの理由から行えない )。

今回が初めての調査となったスウェーデンでは「他にやりたいことがある」( 27.8% ) の割合がとくに高いという特徴が見られる。

図 5 - 9 ボランティア活動に参加しない理由（第 7 回調査）複数回答 %



前回調査と比較するならば、全般的な傾向には大きな変化はない。その中でもそれなりに大きなものとして以下の変化が見られる。まず日本で「時間的・精神的ゆとりがない」(22.4%から 32.2%)の割合が10ポイントほど高まった。また韓国では、「関心がない」(36.3%から 47.6%)が10ポイントほど高まった一方で、「時間的・精神的ゆとりがない」(35.8%から 24.2%)、「経済的余裕がない」(26.3%から 16.0%)がそれぞれ10%ほど低下した。

表 5 - 11 ボランティア活動に参加しない理由（第 6 回・第 7 回調査）複数回答 %

	日本 6 回	日本 7 回	ア メ リ カ 6 回	ア メ リ カ 7 回	韓 国 6 回	韓 国 7 回	ド イ ッ 6 回	ド イ ッ 7 回	ス ウェ ー デン 7 回
関心がない	18.3	15.9	39.2	45.8	36.3	47.6	41.0	37.3	28.0
やりたい活動が見つからない	11.1	10.3	11.5	16.1	20.5	25.0	13.1	14.1	17.5
近くに適当な場が見つからない	7.7	6.8	5.2	4.3	9.5	7.1	13.1	8.9	3.5
一緒にやる仲間が見つからない	4.3	3.9	3.3	2.4	3.5	2.8	4.2	2.7	2.9
家族や周囲の理解が得にくい	0.5	0.6	1.1	1.0	0.1	0.2	1.5	1.3	0.4
家族の介護をしている	3.4	3.6	3.5	2.8	1.2	2.2	11.7	7.9	9.7
これまでのキャリアにふさわしくない	0.5	0.2	0.6	0.2	1.5	1.6	0.0	0.0	0.0
他にやりたいことがある	8.0	10.3	19.0	16.1	2.5	1.8	17.5	19.5	27.8
時間的・精神的ゆとりがない	22.4	32.2	17.1	22.6	35.4	38.7	9.9	14.3	19.6
健康上の理由、体力に自信がない	33.9	31.5	23.0	22.8	35.8	24.2	22.3	26.2	16.7
団体内での人間関係がわずらわしい	2.7	3.9	0.4	2.6	1.7	1.5	1.9	2.7	3.3
経済的余裕がない	2.1	2.1	2.4	4.7	26.3	16.0	4.4	4.6	1.6
その他	8.7	3.8	1.5	2.6	1.6	0.1	6.6	1.3	4.5

## 2 学習活動

### (1) 学習活動への参加状況 (Q50)

表 5 - 12 の第 7 回 (今回) 調査の結果 (「学習活動への参加状況」) を見ると、「参加していない」の割合は、韓国が 89.8% と最も高く、次いで、ドイツ (79.5%)、日本 (78.1%)、アメリカ (70.9%)、スウェーデン (64.4%) の順となっている。韓国は、Q48 の ボランティア活動と同様、学習活動への参加率も低いことがうかがえる。なお、韓国を除き、前回、前々回調査時よりも、「参加していない」の割合が減少する傾向が見られる (ちなみにアメリカは前々回から前回にかけて若干増加したが、今回は 5 ポイントあまり減少している)。

図 5 - 10 は、参加している場合の活動について、その割合をグラフで示したものである。全体的にいうと、「カルチャーセンターなどの民間団体が行う学習活動」の割合が各国ともに高くなっている (日本が 12.9%、アメリカが 12.2%、ドイツが 8.0% でそれぞれ 1 位を占めているほか、韓国が 2.8%、スウェーデンが 13.0% で 2 位に位置している)。これに、「公的機関が高齢者専用で設けている高齢者学級など」、「公的機関や大学などが開催する公開講座など」の 2 つを加えた 3 つの活動が、各国における主要な学習活動の類型となっている。

国ごとに個別に見ていくと、日本の場合あまり大きな変化はないが、テレビやインターネットなどの通信手段を用いた自宅での学習の割合が、これまでの調査の中で一番高い数字を挙げている。

アメリカで学習活動への参加率がスウェーデンに次いで高くなっている理由としては、先ほど挙げた主要な 3 つの類型 (「カルチャーセンターなどの民間団体が行う学習活動」、「公的機関が高齢者専用で設けている高齢者学級など」、「公的機関や大学などが開催する公開講座など」) への参加者がそれなりに高い水準で存在しているということがあるように思われる。

韓国の場合、「カルチャーセンターなど」の割合が前回かなり延びたのだが、今回調査では前々回並みに低下してしまった。今回、「参加していない」が増加した要因の 1 つになっていると思われる。

ドイツの場合、「カルチャーセンターなどの学習活動」が 1 ポイントほど減少したが、上で挙げた主要 3 類型の残り 2 類型がそれぞれ増加しており、全体として「学習活動」に参加する割合の増加につながっている。最後にスウェーデンについて特徴的なのは、前々回調査と比較して「参加していない」の割合が 15 ポイント以上低下している点である。実際、スウェーデン以外の国においては、3 ポイントから 5 ポイント程度の低下にとどまっている。

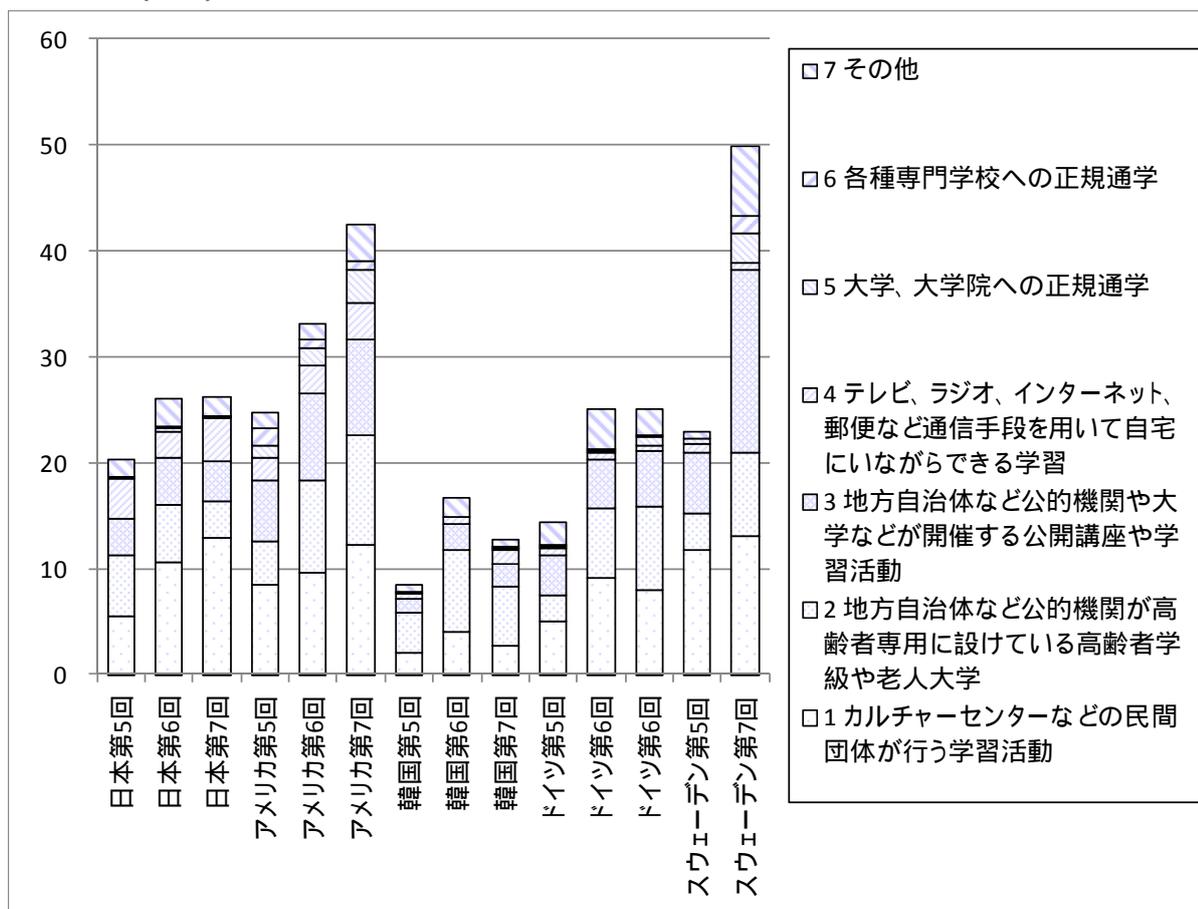
全体的な動向を見ると、学習活動への参加については、緩やかではあかもしれないが、今後とも高まっていくものと思われる。

表 5 - 12 学習活動への参加状況(第 5 回調査・第 6 回調査・第 7 回調査) (複数回答) %

Q50

	日本第 5 回	日本第 6 回	日本第 7 回	アメリカ第 5 回	アメリカ第 6 回	アメリカ第 7 回	韓国第 5 回	韓国第 6 回	韓国第 7 回	ドイツ第 5 回	ドイツ第 6 回	ドイツ第 6 回	スウェーデン第 5 回	スウェーデン第 7 回
カルチャーセンターなどの民間団体が行う学習活動	5.5	10.6	12.9	8.4	9.7	12.2	2.1	4.0	2.8	5.1	9.1	8.0	11.8	13.0
地方自治体など公的機関が高齢者専用に行っている高齢者学級や老人大学	5.7	5.5	3.4	4.2	8.7	10.4	3.8	7.8	5.5	2.4	6.6	7.8	3.4	8.0
地方自治体など公的機関や大学などが開催する公開講座や学習活動	3.5	4.3	3.9	5.8	8.1	9.0	1.2	2.4	2.2	3.7	4.6	5.4	5.7	17.2
テレビ、ラジオ、インターネット、郵便など通信手段を用いて自宅にいながらできる学習	3.8	2.6	4.0	2.1	2.7	3.5	0.6	0.7	1.2	0.8	0.6	0.5	0.9	0.7
大学、大学院への正規通学	0.0	0.2	0.1	1.2	1.6	3.2	0.0	0.0	0.3	0.1	0.2	0.8	0.4	2.8
各種専門学校への正規通学	0.2	0.2	0.1	1.6	0.8	0.8	0.1	0.0	0.1	0.2	0.2	0.1	0.0	1.6
その他	1.6	2.7	1.9	1.5	1.5	3.4	0.7	1.8	0.6	2.1	3.7	2.4	0.7	6.6
参加していない	83.8	78.6	78.1	73.5	76.0	70.9	92.9	87.4	89.8	87.1	80.4	79.5	80.8	64.4

図 5 - 10 (Q50) 学習活動への参加態様 複数回答 %



## (2) 学習活動に参加しない理由

学習活動に参加しない人に参加しない理由を聞いたところ、まず特徴的であったのは、各国ともに「関心がない」の割合が高かったという点である。とりわけ、アメリカ、韓国、ドイツでは、「関心がない」が他の理由を引き離して1位となっている。関心がないから参加しないという、ごく自然な因果関係を踏まえれば、当然と言えば当然の結果ではある。

次にアメリカ、ドイツ、スウェーデンでは、「他にやりたいことがある」の割合が高い(アメリカ 22.1%、ドイツ 19.0%、スウェーデン 29.9%)。具体的にどういうことをやりたいと考えているのか、またそれを実際に行っているかどうかによっても異なるので一概には言えないが、高齢者の社会参加ということとの関係から言えば、他の項目と異なり肯定的な要素も含んだ回答と見ることもできよう。

日本では、「関心がない」(25.9%)、「時間的・精神的ゆとりがない」(31.0%)、「健康上の理由」(24.6%)が、ほぼ同じようなレベルで挙げられており、「関心がない」を理由とする割合が他を引き離して圧倒的に多いアメリカ、韓国、ドイツと対照的である。このことは、逆に言うと、それらの国々と比べて、学習活動に参加しない人に「関心がない」人が必ずしも多いわけではない(参加しない人の中にも関心があるような人も相当程度いる)ということでもある。これにかかわって、「活動に関心がないわけではない」にもかかわらず、Q50 で見たように「参加していない」が多い(つまり実際に参加している人は少ない)という構図は、ボランティア活動の場合(Q48, Q49)と共通している。この点、日本の特徴と考えてよいかも知れない。

前回調査との比較では、全体としてとくに大きな変化は見られないが、そうした中でも、韓国について、「関心がない」が前回調査から13ポイント増加し(39.2%から52.2%)、逆に「経済的余裕がない」が9ポイントほど減少している(25.5%から16.7%)。(表5-13参照)

図 5 - 11 学習活動に参加しない理由 複数回答 %

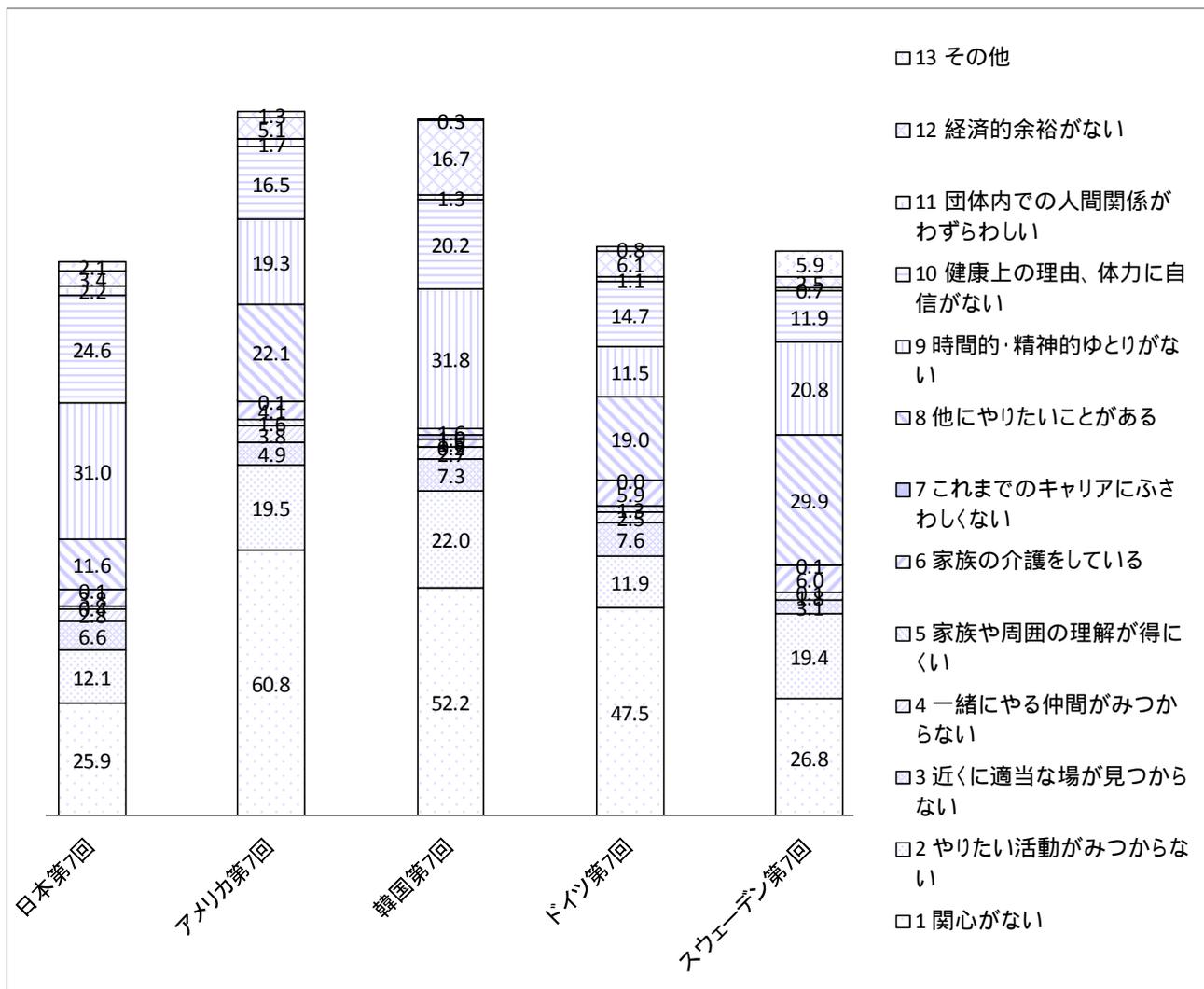


表 5 - 13 学習活動に参加しない理由 第 6 回調査・第 7 回調査 複数回答 %

		日本第 6 回	日本第 7 回	アメリカ第 6 回	アメリカ第 7 回	韓国第 6 回	韓国第 7 回	ドイツ第 6 回	ドイツ第 7 回	スウェーデン第 7 回
1	関心がない	26.9	25.9	52.0	60.8	39.2	52.2	44.7	47.5	26.8
2	やりたい活動が見つからない	10.3	12.1	14.2	19.5	18.8	22.0	12.0	11.9	19.4
3	近くに適当な場が見つからない	7.4	6.6	4.5	4.9	12.5	7.3	10.0	7.6	3.1
4	一緒にやる仲間が見つからない	3.5	2.8	1.7	3.8	4.2	2.7	3.3	2.5	1.8
5	家族や周囲の理解が得にくい	0.3	0.4	0.5	1.6	0.1	0.2	0.7	1.3	0.1
6	家族の介護をしている	3.5	3.8	2.0	4.1	1.6	1.6	12.6	5.9	6.0
7	これまでのキャリアにふさわしくない	0.6	0.1	0.3	0.1	0.9	1.0	0.0	0.0	0.1
8	他にやりたいことがある	11.5	11.6	20.1	22.1	1.7	1.6	20.2	19.0	29.9
9	時間的・精神的ゆとりがない	21.0	31.0	17.6	19.3	33.4	31.8	11.4	11.5	20.8
10	健康上の理由、体力に自信がない	25.5	24.6	14.3	16.5	29.2	20.2	14.2	14.7	11.9
11	団体内での人間関係がわずらわしい	1.5	2.2	0.3	1.7	1.1	1.3	0.4	1.1	0.7
12	経済的余裕がない	2.4	3.4	2.8	5.1	25.5	16.7	6.2	6.1	2.5
13	その他	6.8	2.1	1.6	1.3	1.5	0.3	5.5	0.8	5.9

# 情報機器の利用

## 1 情報機器の利用状況 (Q52)

表5-14は「情報機器を使って、家族や友人と連絡をとったり、情報を探したりしているか」という問いに対する結果を示したものである。また、図5-12は、調査結果についてグラフを使って比較したものである。

まず、最も目を引くのが、「いずれも使わない」の減少率が顕著なことである。第5回調査から第7回調査の推移を見ると、日本が78.9%から35.6%(マイナス43ポイント)、アメリカが65.3%から20.7%(マイナス45ポイント)、韓国が79.7%から20.5%(マイナス59ポイント)、ドイツが77.6%から41.3%(マイナス36ポイント)、スウェーデンが55.1%から13.7%(マイナス41ポイント)となっている。前回調査ぐらいまでは、情報機器を使わない高齢者がなお多数派を形成していたといえる状況であったが、今回調査の段階では、使わない高齢者がむしろ少数派になってきている。もちろんその状況は、国によっても温度差があり、ドイツ(41.3%)や日本(35.6%)のように、なお3分の1以上が未使用者である国と、スウェーデン(13.7%)、韓国(20.5%)、アメリカ(20.7%)のように2割台を切りつつある、あるいは切ってしまう国もある。とはいえ、各国ともに未使用者の減少傾向は明白であり、ドイツや日本におけるさらなる未使用者の割合の低下が見込まれる。

次に具体的な利用状況を見ると、いずれの国でも「携帯電話やPHSで家族・友人などと連絡をとる」(日本58.6%、アメリカ72.2%、韓国78.1%、ドイツ50.5%、スウェーデン77.7%)の割合が最も高い。また、日本では他の国と比べて、「ファックスで家族・友人などと連絡をとる」(14.7%)の割合が高くなっている。

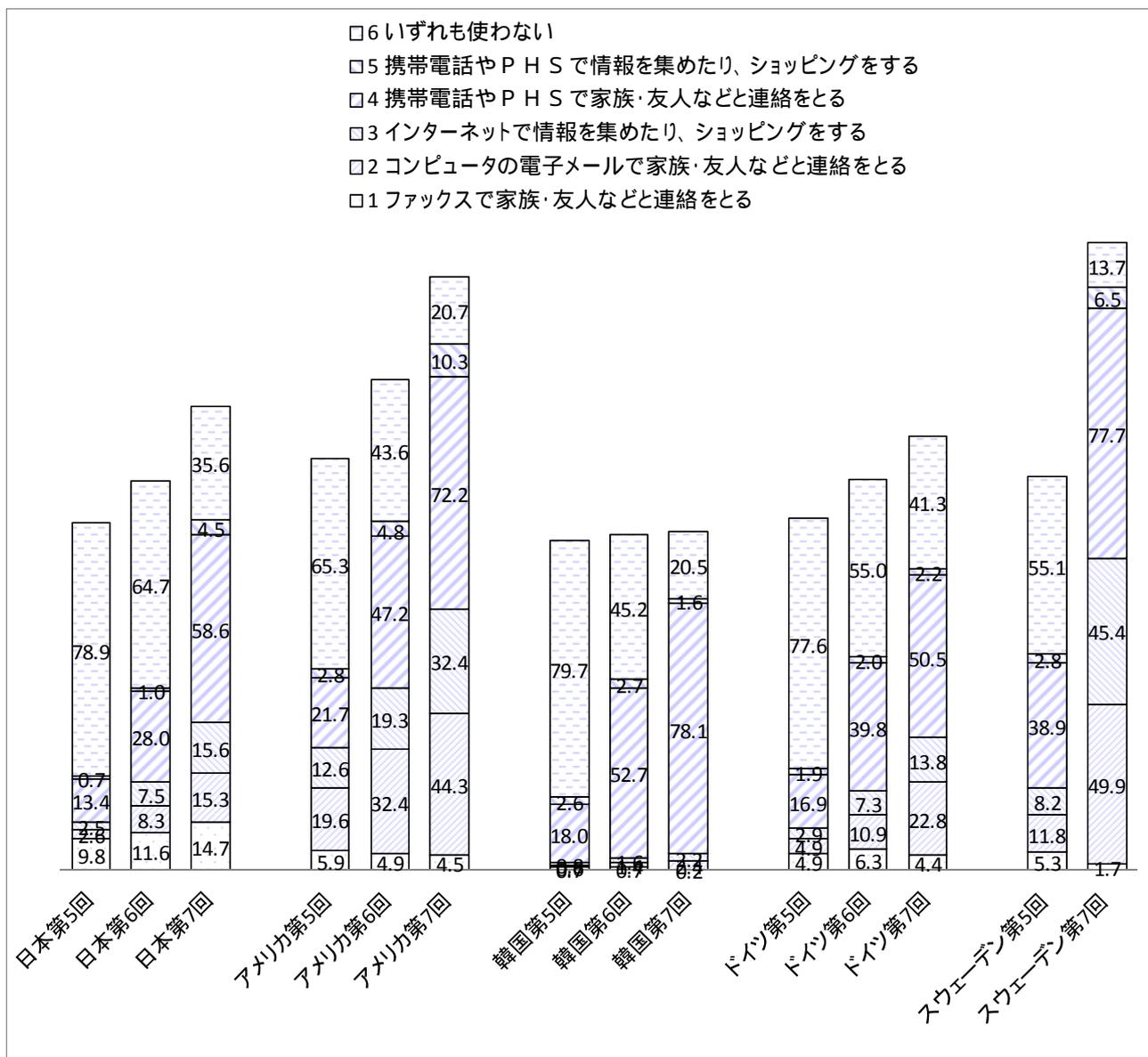
アメリカとスウェーデンでは、「コンピュータの電子メールで家族・友人などと連絡をとる」(アメリカ44.3%、スウェーデン49.9%)や「インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする」(アメリカ32.4%、スウェーデン45.4%)などのパソコンを利用した通信手段の割合が高くなっている。

なお時系列でみると、冒頭で示したように情報機器を利用する割合は継続的に上昇しているが、特に、「携帯電話やPHSで家族・友人などと連絡をとる」(日本28.0% 58.6%、アメリカ47.2% 72.2%、韓国52.7% 78.1%、ドイツ39.8% 50.5%、スウェーデン38.9% 77.7%)の割合の増加が顕著であり、情報機器利用の伸展に関しては「携帯電話やPHS」の普及によるところが大いと言えよう。

表 5 - 14 情報機器の利用状況 (Q52) 複数回答 %

		日本 第5回	日本 第6回	日本 第7回	アメリ カ第5回	アメリ カ第6回	アメリ カ第7回	韓国 第5回	韓国 第6回	韓国 第7回	ドイツ 第5回	ドイツ 第6回	ドイツ 第7回	スウェー デン第5回	スウェー デン第7回
1	ファックスで家族・友人などと連絡をとる	9.8	11.6	14.7	5.9	4.9	4.5	0.7	0.7	0.2	4.9	6.3	4.4	5.3	1.7
2	コンピュータの電子メールで家族・友人などと連絡をとる	2.6	8.3	15.3	19.6	32.4	44.3	0.6	1.4	2.4	4.9	10.9	22.8	11.8	49.9
3	インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする	2.5	7.5	15.6	12.6	19.3	32.4	0.8	1.6	2.2	2.9	7.3	13.8	8.2	45.4
4	携帯電話やPHSで家族・友人などと連絡をとる	13.4	28.0	58.6	21.7	47.2	72.2	18.0	52.7	78.1	16.9	39.8	50.5	38.9	77.7
5	携帯電話やPHSで情報を集めたり、ショッピングをする	0.7	1.0	4.5	2.8	4.8	10.3	2.6	2.7	1.6	1.9	2.0	2.2	2.8	6.5
6	いずれも使わない	78.9	64.7	35.6	65.3	43.6	20.7	79.7	45.2	20.5	77.6	55.0	41.3	55.1	13.7

図 5 - 12 情報機器の利用状況 (Q52) 複数回答 %



2 情報機器を利用しない理由 (Q53)

表 5 - 12・図 5 - 13 は、上記の質問で情報機器を利用しないと答えた者に対して、その理由を聞いた結果である。これによると、各国とも「必要性を感じないから」の割合が最も高い(日本 74.6%、アメリカ 80.7%、韓国 62.1%、ドイツ 73.7%、スウェーデン 57.6%)。ただしその中でも、韓国とスウェーデンの場合は、前々回調査に比べて韓国の場合で 16 ポイント、スウェーデンの場合で 23 ポイントあまり低下していて、両国については、日本、アメリカ、ドイツに比べると 15~20 ポイントほど低いレベルとなっている。その他の理由としては、いずれの国も「使い方が分からないので、面倒」あげる者が多かった。さらにアメリカ、韓国、ドイツに関しては、「お金がかかるから」を理由とする者も多い(韓国・28.6%、アメリカ・25.1%、ドイツ 12.0%)。なお韓国については、前回調査に引き続いて今回の調査でも 5 カ国中で最も高い数字を出しているが、それでも前回調査の 42.8%と比較するとかなり低下してきている面もある。

表 5 - 15 情報機器を利用しない理由 複数回答 %

	日本第 5 回	日本第 6 回	日本第 7 回	アメリカ第 5 回	アメリカ第 6 回	アメリカ第 7 回	韓国第 5 回	韓国第 6 回	韓国第 7 回	ドイツ第 5 回	ドイツ第 6 回	ドイツ第 7 回	スウェーデン第 5 回	スウェーデン第 7 回
必要性を感じないから	78.0	81.3	74.6	85.9	85.3	80.7	78.3	66.7	62.1	79.3	84.5	73.7	81.3	57.6
使い方が分からないので、面倒	35.7	28.4	26.8	17.6	12.6	31.4	24.7	20.4	20.4	21.4	27.7	27.7	21.6	19.4
興味はあるが購入場所、購入方法などがわからない	1.1	0.7	0.7	1.1	0.0	0.0	6.2	1.7	1.0	0.7	0.0	0.2	0.5	0.7
使い方を覚えたいが、教えてくれる人がいない	5.0	1.7	2.1	2.8	2.5	4.3	5.4	4.8	1.5	3.0	2.8	2.2	0.9	1.4
お金がかかるから	13.7	4.0	8.3	18.2	11.0	25.1	39.8	42.8	28.6	21.7	21.8	12.0	18.7	4.2
文字が見にくいから	8.6	4.0	5.5	2.8	2.8	6.8	8.7	9.6	12.1	4.3	7.6	9.2	3.4	6.3
その他	3.1	5.0	4.3	2.8	0.5	3.9	1.2	4.8	2.4	7.1	9.9	12.3	1.4	20.8

図 5 - 13 情報機器を利用しない理由 複数回答 %

